

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 計画

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	武雄市立北方小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 学力の向上について、市販テストでは平均正答率83%であったが、学習状況調査の結果を見ると県平均を下回っているところが多かった。授業力を高める校内研修を今後も実施し、学力向上に向けて、全校で共通理解、共通実践していく必要がある。 教職員の働き方改革については、感染症対策で多くの行事が、規模縮小、中止になったこともあり、職員全体の時間外勤務時間は減少にある。今後も行事、業務の在り方、内容を見直し、効率を高めていくことが大事である。 地域の協力を得ながら、地域に根差した総合的な学習や生活科の実践に取り組んできた。児童の郷土に対する関心、愛着も高まってきている。今後も地域の方との連携を大切にしながら、学校教育目標にある「ふるさとを愛する児童の育成」に取り組んでいく必要がある。 いじめ、不登校、情報モラル、教育相談、特別支援教育など、今後も時代の変化に対応しながら教育活動に取り組んでいくことが大事である。
2 学校教育目標	かしこく やさしく たくましく ふるさとを愛する児童の育成
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ○質の高い教育活動の推進 ・学び合い高め合う教師集団「チーム北方小」の育成 ・学力向上のための取組の推進 ○地域と共に伸び行く学校づくりの推進 ・北方町が大好きな子どもたちの育成 ・地域との連携 ・幼児小・小中連携

4 重点取組内容・成果指標 中間評価 5 最終評価

重点取組内容・成果指標	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	主な担当者	
	評価項目	取組内容		達成度（評価）	進捗状況（評価）	達成度（評価）	実施結果			評価
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・学力向上対策評価シートをもとにした研修を年3回行い、職員間の課題の共通理解を図る。また、学習状況調査やCRTの結果をもとに改善策について話し合う機会を設ける。	B	・全国学力・学習状況調査の結果から誤答分析を行い、全体での研修を行った。また、そこから本校の傾向をつかみ、校内研究とも関連させることでその課題を解決するための指導を各学級で行っている。	G	・課題解決についての取組は継続して行っており、改善の実感は得られているが、目に見える結果としては得られていない。共通理解、共通実践を引き続き行っていくことが重要である。	C	・先生たちは頑張ってくれていると思う。	・学力向上コーディネーター
	○児童の基礎学力の向上	○学習した内容について、市販テストにおける得点率80%以上を目指す。	・日々の学習指導において、既習内容の定着状況を把握し、適宜指導を行うとともに習熟・定着を図る家庭学習に取り組ませる。	A	・前期分までの市販テストの正答率が学校全体で82%であった。 ・今後は更なる基礎学力の定着、成績下位層の底上げを目指し、指導方法を工夫していく。	B	・2月中旬までの市販テストの正答率が学校全体で約83%であった。 ・市販テストでの正答率では一定の水準を保っているものの学習状況調査etc.、説明の記述が求められる問題で課題が見られる。	C	・中学校へつながる課題を小中学校が共に設定してはどうか。 ・親の関りが大きいと思う。予習復習の徹底と勉強するときに自分で考える習慣を身に付けさせる。スマホやゲーム依存を減らす努力が必要。	・指導方法改善担当
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動することなど、豊かな心を身に付ける教育活動	○友達・先生・地域の方々には挨拶をしたり声を掛けられたときにははっきりと答えたりする児童80%以上を目指す。 ○道徳科の授業実践100%。 ○人権・同和教育に関する全学級での授業実践および人権集会の実施。 ○異学年での交流活動や縦割り班活動の実施。	・元氣よく挨拶をしたり分けたりやすく受け答えをしていたりする児童を称賞したり、全体の場や放送で紹介したりして、他の児童の意欲を高める。 ・毎週の授業実践と授業参観（ふれあい道徳）の実施。 ・人権教育の授業実践と人権集会の実施。 ・異学年での交流活動や縦割り班活動の実施（1年生を迎える交流・6年生のお別れ交流・給食や掃除の手伝い・朝の活動）。	C	・道徳の授業実践は計画通り行われている。 ・登校時の正行での挨拶は「挨拶運動」の取り組みで向上しているが、それ以外の挨拶はまだ十分とは言えない。分りやすい受け答えも継続した指導や称賞が必要。 ・人権教育の授業実践と人権集会は12月実施予定。 ・異学年交流は、各学年で授業の一環として取り組んだり6年生が朝の読み聞かせを継続したりしている。	B	・人権・同和教育の視点で、12月までに授業実践や学級での様々な取り組みが行われた。12月に実践交流会を行ったことで、各学級の課題に合わせた取り組みが行われていることが分かった。情報の共有もできたと思う。 ・人権集会を行ったことで、児童が「心のバリアフリー」について考え、困っている人のために自分にもできることがないかという思いを持ったようだ。 ・道徳の授業実践および異学年交流や縦割り班活動は、年間計画に沿ってできる範囲で実践することができた。	B	・情操教育を心がける。礼儀や挨拶はまず親が教え、実践させることが大切であると思う。	・人権・同和教育担当 ・道徳教育推進担当
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○毎週、全職員で情報共有する機会を設定する。 ○定期的に生活アンケート、いじめアンケートを実施し、児童の心の健康状態を把握する。	・気になる児童について情報共有し、全職員で見守り、支援する。 ・アンケートなどで把握した内容についての対応は、担任だけでなく、学年担任、級外の職員と相談しながら細かく対応していく。	B	・毎週水曜日に全職員で気になる子について情報共有し、児童への支援にあたることのできる。特に気になる児童についてはケース会議を開き、その児童に最適な対応を関係者一同で考え、実行するために準備中である。	A	・定期的な生活アンケート、いじめアンケートを実施し、児童の心の健康状態を把握し対応している。 ・毎週水曜日に全職員で気になる子について情報共有し、全職員で支援にあたることのできる。 ・特に気になる児童についてはケース会議を開き、その児童に最適な対応を関係者一同で考え、実行している。	A	・家庭での子供と接する機会を増やし、愛情をたっぷり注いでやる。 ・学校と家庭との密な連携が必要である。	・教育相談 ・生徒指導主任
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に食事は大切である」と考える児童生徒99%以上 ○朝食をとって登校する児童90%以上	・食生活調査を実施する。 ・食事の大切さ、早寝早起き朝ごはんの励行について、給食時間や委員会活動などを活用し、指導する。 ・食習慣や生活習慣について、掲示物やお便りを活用し、啓発する。	B	・食生活調査を6月に実施し、その結果、「健康に食事が大切である」と考える児童は99.3%。朝食を毎日食べる児童が99.2%、2～3日食べない日がある児童が7.4%、4～5日食べない日がある児童が0.7%、食べない児童が2.7%であった。 ・委員会活動や給食時間などを活用し、食習慣や生活習慣についての指導を行った。また、掲示物やお便りを活用し、啓発した。	B	・食生活調査を6月に実施した。「健康に食事が大切である」と考える児童は99.3%であり、前年度に比べて増加し、また目標の99%以上となった。しかし、朝食を毎日食べる児童が99.2%、2～3日食べない日がある児童が7.4%、4～5日食べない日がある児童が0.7%、食べない児童が2.7%であった。毎日朝食を食べる児童の割合が目標の90%に届かなかったため、引き続き指導を行う。 ・委員会活動や給食時間などを活用し、食習慣や生活習慣についての指導を行った。また、動画やお便りを活用し、啓発した。	B	・外遊びをさせることや親の手作りの食事を食べさせるべきだと思う。残さず食べることや、後片付けもきちんとやらせたい。	・学校栄養職員 ・給食主任
	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減 ●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・県費職員の時間外勤務の平均時間が40時間以下を目標に業務改善に取り組む。 ・業務の効率化と退勤時間を意識した業務遂行を意図させる。 ・定時退勤日の設定および周知を行う。	C	・県費職員の時間外勤務の平均時間は43時間と目標に到達できなかった。職員の中にはすでに合計360時間以上に達している職員も見られる。 ・定時退勤日を定めているが、職員によって定時で退勤する曜日が異なり徹底できなかった。 ・時間外勤務時間が多くなっている職員には、個別に声掛けをし、具体的な時数を提示して時間外勤務の削減を目指す。	B	・時間外勤務平均時間は約41時間であった。月平均60時間以上が4名、月平均40時間以下が13名であり、職員の50%は目標を達成できた。 ・定時退勤日を定めているが、職員によって声掛けを行い、各自、曜日を決めて早めの退勤をする職員も見られ、月60時間以上の職員が減少した。 ・感染症対策として朝の検温や放課後の校内の消毒、オンライン授業の準備など新たな業務が増えたが、職員間で協力して役割を分担し、時間外勤務時間を増やすことなく効率的に取り組むことができた。	B	・コロナ対応等で増えた負担分は、外部の支援を得られるようしかるべきところに訴えてほしい。 ・宿題や提出物など、家庭でできることはきちんとやり、学校に時間や手間などの負担を増やさないようにしたい。 ・教職員の数を増やすことができれば、時間外の業務が削減されると思う。	・教頭

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	主な担当者	
	評価項目	重点取組内容		達成度（評価）	進捗状況（評価）	達成度（評価）	実施結果			評価
○個に応じた教育の推進	○特別支援教育の推進	○特別支援教育のねらいや意義、本校での方針や取り組みについて理解し実践している教職員を100%にする。 ○個別の支援計画を保護者と共有し、将来を見据えて面談を行ったり日々の指導に当たったりする。	・校内委員会や特別支援教育に関する研修会を実施し教職員の資質向上を図る。 ・「特別支援教育だより」や「懇談会資料」で保護者への啓発を行う。 ・巡回相談、連絡教室、専門機関等に関する情報を保護者へ紹介し、利用を進めるとともに、スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカー及び養護教諭、教育相談担当者と連携しながら特別支援教育の効果や必要性を啓発していく。 ・個別の支援計画同意書を取って作成し、個人面談の際に保護者へ提案、日々の指導に当たって学期ごとに振り返りを行う。	B	・夏休み中の研修を延期したまま実施できずにいるので、今後計画したい。 ・個人懇談前には中学校での研修会を実施して保護者に先を促した話をすることができた。個別の支援計画についても同意書を取って保護者と共有することができた。 ・専門機関や中学校と一緒にケース会議を行うことができ、気になる児童を就学指導委員会につなぐことができた。 ・支援学級に在籍児童の保護者への啓発は進捗を見据えて今後も継続が必要。	B	・延期していた研修会をコロナ対策のため再度延期することになり校内で別の研修を行うこともできなかった。次年度は必ず実施したい。 ・保護者の同意を得て個別の支援計画および「支援計画」を作成し、児童の実態に応じた支援を行うことができた。振り返りを行った後は、次年度の引き続き資料として保管しておく。 ・気になる児童のケース会議を開いてできる支援を実践したり、就学指導委員会につなげて次年度からの入級へつなげたりすることができた。 ・PTA総会や入学式、新1年生保護者説明会で特別支援教育について説明することができた。個人懇談に関しては、中学校の先生方との研修を受けて詳しく説明することができた。	B	・能力別（習熟度別）の指導をお願いしたい。	・特別支援教育担当
	○郷土愛を育む教育の推進	○自分が生まれ育った地域に誇りを持ち、自分の目標に向けて努力しようとする気持ちを育む教育活動の推進	○地域に愛着を持っていると回答する児童80%以上	・各行事や総合的な学習に時間、生活科等の時間に、地域の方々と関わり合う機会を設け、自分たちが住む地域（人、もの、こと）の良さや味わえるような学習を進める。	C	・町の特徴や施設等についての学習は計画通り進んでいる。しかし、地域の方々と関わりについては、十分行うことができない現状が続いている。予定していた活動を後半にスライドさせるなどの工夫をしながら、実施していく予定である。	B	・地域の方と直接関わりをもつ機会は例年より減ってしまったが、メディアの活用や町の様子についての現地調査など、この状況下でもできることを各学年で模索し、取り組むことができた。児童だけでは解決の難しいものについて、今後はオンラインなどの利用を考えていく。	A	・これからも地域の行事に積極的に参加させるべきであると思う。

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育 ・本校の最優先課題が学力向上である。基礎学力の向上、学習内容の定着に向け、全職員で共通理解、共通実践を行ってきた。今後も全職員で実践していくことが大事である。また、家庭学習を通して学校と家庭が連携し、児童の学力向上を目指していく必要がある。 ・感染症対策で新たな業務が増えた。その反面、行事の見直し等も行われてきている。これを機に、時間外勤務の時間の削減を目指し、できることから一つずつ取り組んでいく。 ・個に応じた教育は、特別支援学級だけでなく普通学級でも大切な事である。きめ細やかな指導を目指すために、全職員で研修を重ね、教師としての指導力を高めていく。 ・本校は、地域の方の協力を得ながら様々な学習に取り組んできた。今後も地域の方との連携を大切にしながら「ふるさとを愛する児童の育成」を目指し、継続していく。
----------------	--